

人事行政諮問会議(第8回) 議事要旨

日時:令和6年4月22日(月)10時30分～11時30分

会場:人事院第一特別会議室

出席者:(委員)森田座長、荒木委員、小林委員、峰岸委員、宮島委員
(人事院)川本総裁、柴崎事務総長、役田総括審議官、
荻野職員福祉局長、荒井人材局長、佐々木給与局長、
植村事務総局審議官、野口総務課長、神宮司企画法制課長
(オブザーバー)内閣官房内閣人事局 平池審議官

議事内容:中間報告(案)について

資料1(中間報告(案))について意見交換が行われた。その後、資料1の内容については了承され、今後の字句修正については、座長に一任され、座長と事務局で相談して中間報告を確定することで了承された。

- 委員からの主な意見は以下のとおり。
 - ・ 提示された案は、各委員の意見が反映されたものとなっており、これで問題ないと思う。
 - ・ 1ページの公務の使命に関する記述について、「日本国民の生活を守り」とあるが、国民の安全を守る多くの公務員がいることを踏まえ、「安全」という文言を入れ込んでいただきたい。
 - ・ 14ページの「女性のみならず」という表現について、今の時代は様々なダイバーシティの捉え方がある中で女性活躍のみを前面に出しているように見えるので、不要だと思う。また、各施策の実効性についても各府省の状況も聞きながら詰めていく必要。
 - ・ 中間報告について、現状を変えようというメッセージが伝わるかが重要であるとともに、最終的な実行案が現実的なものになるか、という点も重要。特に、施策の対象となるスコープの設定については、最終答申までに、どう切り出すとよいか、実現可能性も踏まえて議論する必要。
 - ・ 中間報告は、どういった考え方に基づいて書いたものか、その基本思想が分かるようにする必要。その上で、今後の具体化に向けた方向性を示したという位置付け。現在の人材確保が困難という課題やヒアリングで様々な聞かれた職場の課題に

対して、重要なのはヒューマンリソースマネジメントの考え方であり、職員一人一人の能力を最大限に引き出し、その上で評価、適切な報酬があり、能力が発揮できる環境を整備するということ。

- ・ 公務はやりたくないこともやらなければならない、どうモチベーションを保ってもらえるかも重要であり、そのために、行動規範や、上司が仕事の意味を説明するというマネジメントが重要。